

航空従事者学科試験問題

P35

資格	航空通信士	題数及び時間	20題 40分
科目	法規 [科目コード：04]	記号	C4XX040870

注 意 (1) 「航空従事者学科試験答案用紙」(マークシート)の所定の欄に、「受験番号」、「受験番号のマーク」、「科目」、「科目コード」、「科目コードのマーク」、「資格」、「種類」、「氏名」及び「生年月日」を記入すること。

「受験番号」、「受験番号のマーク」、「科目コード」及び「科目コードのマーク」の何れかに誤りがあると、コンピュータによる採点処理が不可能となるので当該科目は不合格となります。

(2) 解答は「航空従事者学科試験答案用紙」(マークシート)に記入すること。

配 点 1問 5点

判定基準 合格は100点満点の70点以上とする。

- 問 1 航空法の目的について、誤りはどれか。
(1) 航空機の航行の安全及び航空機の航行に起因する障害の防止を図るための方法を定める。
(2) 航空機を運航して営む事業の発展を図る。
(3) 航空の発達を図る。
(4) 公共の福祉を増進する。
- 問 2 航空業務の定義として正しいものはどれか。
(1) 航空機の牽引
(2) 航空機に乗り組んで行う無線設備の操作
(3) 航空交通管制の実施
(4) 航空機の運航管理
- 問 3 自家用操縦士の技能証明の限定について、誤りはどれか。
(1) 航空機の種類について限定される。
(2) 航空機の等級について限定される。
(3) 構造上、その操縦のために2人を要する航空機は、型式について限定される。
(4) 航空機の型式についての限定は、実地試験に使用される航空機とは関連がない。
- 問 4 航空機（滑空機を除く）に備え付ける書類について誤りはどれか。
(1) 航空機登録証明書
(2) 耐空証明書
(3) 搭載用航空日誌
(4) 型式証明書
- 問 5 航空法第70条（酒精飲料等）による、酒精飲料又は麻醉剤その他の薬品を服用した後の航空業務の制限について正しいものはどれか。
(1) 酒精飲料等を飲んだ後、8時間は航空業務を行ってはならない。
(2) 酒精飲料等を飲んだ後、10時間は航空業務を行ってはならない。
(3) 酒精飲料等を飲んだ後、12時間は航空業務を行ってはならない。
(4) 正常な運航ができないおそれのある間は航空業務を行ってはならない。
- 問 6 耐空証明について誤りはどれか。
(1) 耐空証明は、日本の国籍を有する航空機でなければ、受けることができない。但し、政令で定める航空機については、この限りでない。
(2) 耐空証明は、航空機の種類及び国土交通省令で定める航空機の運用方法を指定して行う。
(3) 航空機は、有効な耐空証明を受けているものでなければ、航空の用に供してはならない。但し、試験飛行等を行うため国土交通大臣の許可を受けた場合は、この限りでない。
(4) 航空機は、その受けている耐空証明において指定された航空機の用途又は運用限界の範囲内でなければ、航空の用に供してはならない。
- 問 7 自家用操縦士の業務範囲で正しいものはどれか。
(1) 航空機に乗り組んで、他の者を乗せずに無報酬、無償の運航を行う航空機の操縦を行うこと。
(2) 機長以外の操縦者として、航空機使用事業の用に供する航空機の操縦を行うこと。
(3) 航空機に乗り組んで、報酬を受けて、無償の運航を行う航空機の操縦を行うこと。
(4) 航空機に乗り組んで、報酬を受けずに、無償の運航を行う航空機の操縦を行うこと。
- 問 8 計器飛行証明を受けていなくても実施できる飛行で正しいものはどれか。
(1) 計器航法による飛行で国土交通省令で定める距離または時間を超えない場合
(2) 計器飛行
(3) 計器飛行方式による飛行で国土交通大臣の許可を受けた場合
(4) 航空交通管制区以外の空域での計器気象状態における飛行

- 問 9 有視界飛行方式で飛行する場合、国土交通大臣の許可が必要な空域はどれか。
- (1) 特別管制空域
 - (2) ターミナル・コントロール・エリア
 - (3) 航空交通管制区
 - (4) 進入管制区 (29,000 ft未満)
- 問 10 操縦練習許可書の有効期間で正しいものはどれか。
- (1) 3ヶ月以内で国土交通大臣が指定する期間とする。
 - (2) 6ヶ月以内で国土交通大臣が指定する期間とする。
 - (3) 1年以内で国土交通大臣が指定する期間とする。
 - (4) 2年以内で国土交通大臣が指定する期間とする。
- 問 11 技能証明を有していない者が、操縦教員の監督の下に操縦練習を行った場合に、飛行経歴は誰によって証明されなければならないか。
- (1) 操縦練習を行った者
 - (2) 航空機の所有者
 - (3) 操縦練習の監督者
 - (4) 国土交通大臣
- 問 12 「登録」について正しいものはどれか。
- (1) 「航空機の定置場」に変更があったときは、その事由があった日から30日以内に
変更登録をしなければならない。
 - (2) 登録航空機について所有者の変更があったときは更新登録の申請をしなければならない。
 - (3) まっ消登録は、その事由があった日から15日以内に、まっ消登録の申請をしなければならない。
 - (4) 日本の国籍を有しない人が所有する航空機でも登録することができる。
- 問 13 飛行計画について正しいものはどれか。
- (1) 飛行計画の通報は、口頭で行ってもよい。
 - (2) VFRにより飛行する場合、出発地から半径10km以内の範囲を飛行する場合は
飛行計画は通報しなくてもよい。
 - (3) VFRにより飛行する場合、移動開始予定時刻の30分前までに飛行計画は通報し
なければならない。
 - (4) VFRにより飛行する場合の飛行計画は、通報し承認を得る必要がある。
- 問 14 VFRで飛行する航空機の最低安全高度に関する記述で、正しいものはどれか。
- (1) 人又は家屋の密集している地域の上空にあっては、当該航空機を中心として
水平距離300mの範囲の最も高い障害物の上端から300mの高度
 - (2) 人又は家屋の密集している地域の上空にあっては、当該航空機を中心として
水平距離300mの範囲の最も高い障害物の上端から600mの高度
 - (3) 人又は家屋の密集している地域の上空にあっては、当該航空機を中心として
水平距離600mの範囲の最も高い障害物の上端から600mの高度
 - (4) 人又は家屋の密集している地域の上空にあっては、当該航空機を中心として
水平距離600mの範囲の最も高い障害物の上端から300mの高度
- 問 15 特別有視界飛行方式によって飛行する場合について正しいものはどれか。
- (1) 管制圏を飛行する場合、飛行視程を1600m以上に維持して飛行する。
 - (2) 情報圏を飛行する場合、航空機からの垂直距離が上方に150m雲から離れて飛行
する。
 - (3) 特別有視界飛行の許可には管制圏内の飛行場から離陸あるいは飛行場への着陸許可
が含まれている。
 - (4) 情報圏を飛行する場合、航空交通情報の提供に関する業務を行う機関を經由して、
当該情報圏内の許可を行う機関と常時連絡を保つこと。

問 16 見張りについて、次の文章の空欄に入る言葉で正しい組み合わせはどれか。
 航空機の（ア）を行っている者《航空機の操縦の練習をし又は計器飛行等の練習をするためその操縦を行っている場合で、その練習を監督する者が同乗しているときは、（イ）》は、航空機の（ウ）は、航空法第 96 条第 1 項の規定による国土交通大臣の指示に従っている航行であるとないとにかかわらず、当該航空機外の物件を視認できない気象状態の下にある場合を除き、他の航空機その他の物件と（エ）しないように見張りしなければならない。

- | | | | | | | | |
|-------|----|---|------------|---|-----|---|----|
| (1) ア | 操縦 | イ | その練習を監督する者 | ウ | 飛行中 | エ | 衝突 |
| (2) ア | 運航 | イ | 練習者若しくは監督者 | ウ | 航行中 | エ | 接触 |
| (3) ア | 操縦 | イ | 練習者と監督者 | ウ | 飛行中 | エ | 接触 |
| (4) ア | 操縦 | イ | その練習を監督する者 | ウ | 航行中 | エ | 衝突 |

問 17 航空交通管制圏における速度制限で正しいものはどれか。

- (1) 高度 900 m 以下で飛行するピストン発動機を装備する航空機にあっては、250 kt
- (2) 高度 900 m 以下で飛行するピストン発動機を装備する航空機にあっては、200 kt
- (3) 高度 900 m 以下で飛行するタービン発動機を装備する航空機にあっては、200 kt
- (4) 高度 900 m 以下で飛行するピストン発動機を装備する航空機にあっては、150 kt

問 18 次に示す飛行場標識施設の種類と表示すべき事項の組み合わせで誤りはどれか。

- (1) 滑走路中央標識 : 滑走路の横方向の中心線
- (2) 着陸帯標識 : 滑走路上の着陸接地区域
- (3) 過走帯標識 : 舗装された過走帯
- (4) 滑走路縁標識 : 滑走路の境界線

問 19 飛行の進路が交叉するか又は接近する場合における航空機相互の進路権の順位について、正しいものはどれか。

- (1) 滑空機 回転翼航空機 物件を曳航している航空機 飛行船
- (2) 飛行船 滑空機 動力で推進している滑空機 物件を曳航している航空機
- (3) 滑空機 物件を曳航している航空機 飛行船 動力で推進している滑空機
- (4) 滑空機 飛行船 回転翼航空機 飛行機

問 20 有視界飛行方式において、航空法上巡航高度について正しいものはどれか。

- (1) 29,000 ft 未満の高度にあっては、磁方位 0 度以上 180 度未満の場合、1,000 ft の奇数倍に 500 ft を加えた高度
- (2) 29,000 ft 未満の高度にあっては、真方位 0 度以上 180 度未満の場合、1,000 ft の奇数倍に 500 ft を加えた高度
- (3) 29,000 ft 未満の高度にあっては、磁方位 0 度以上 180 度未満の場合、1,000 ft の偶数倍に 500 ft を加えた高度
- (4) 29,000 ft 未満の高度にあっては、真方位 0 度以上 180 度未満の場合、1,000 ft の偶数倍に 500 ft を加えた高度